

人権啓発センター だより

平成27年2月
No.14

(公財) 高知県人権啓発センター



雑感

過日、当センターのエレベーターが故障のため2日ほど停止したときがありました。その時丁度、当センターホールで老人大学が予定されておりました。ホールは6階にあり、普段、老人大学の受講生はエレベーターを利用しているため、てっきり、休講になると思っていたところ、その朝、そくそくと受講生が集まりはじめ、しんどい、しんどいと言いながら、階段を上がり始めたではありませんか。平均年齢が75歳を過ぎているとお聞きしていますので、その一段一段は大変な重労働になったはずですが、皆さん、一人の落伍者もなく、全員が6階までの108段を上がりきりました。

高知県は、高齢化先行県といわれ、高齢化率や要介護者の数字などから、どちらかと言えば重苦しい話が先に立ちますが、いえいえ、高知の高齢者は、気力も体力も元気だと実感した一日でした。

(企画啓発課 白石)



人権あれこれ

「メディアリテラシーの重要性」

メディアリテラシーとは、情報を評価・識別する能力のことである。

今日の社会では情報への依存度が大きく、場合によっては誇張されたり、間違った情報をそのまま信じてしまい、様々な場面で何かしらの不利益を被ってしまう可能性も十分予想される。そのため、受け手側に立つ者には、発信された情報を受け取る際、「その情報は信頼できるかどうか」を判断することは

無論のこと、どのような偏りがあるか、さらに一步進めて、その情報を発信した側には、どのような意図や目的で情報を流したり、編集したかを考え、背景を読み取り、情報を取捨選択する能力が求められる。

情報は、我々のもとに届けられる過程で、メディア内部の作り手の視点、当事者の考え、関連する機関の意図など、様々な思惑が絡み合った加工品であるということを意識しておかなければならない。

(事務局長 福田)



じんけんライブラリー

一押し本

「平成25年版 子ども・若者白書」

編集／内閣府 発行／印刷通販株式会社
(1,900円＋税)

各種統計資料などにより、いじめ、児童虐待、ひきこもりなど、子どもや若者の置かれた現状を紹介し、それに対する支援施策の全体像を記述しています。ぜひご覧ください。

(事務局長 福田)



新しく購入した本を紹介します

タイトル	著者／出版社	内容
なぜ、いまヘイト・スピーチなのか —差別、暴力、脅迫、迫害—	前田 朗、 安田 浩一、 富増 四季、 金 東鶴 他 ／三一書房	本書は、現在の日本におけるヘイト・スピーチ現象を的確に理解・把握し、対策を提言する試みです。私たちが生きる日本社会を、悪意と暴力に満ちた社会にしないために「ヘイト・スピーチ」を克服する思想を鍛えるためのガイドブック。
LGBT ってなんだろう？ からだの性・こころの性・好きになる性	薬師 実芳、 古堂 達也、 小川 奈津己、 笹原 千奈未 ／合同出版	体育やプール、制服、行事、友だち関係、カミングアウト…LGBT の子どもたちにとって、日常生活の中にもたくさんのつらい場面や不安な要素がある。LGBT 当事者の学生 50 人の声を収載。
18トリソミー はるの	宇井 千穂 ／かもがわ出版	著者は皮膚科医、不妊治療をして43歳で出産。18トリソミーは染色体異常の一種で、1年生存率は10%程度。自らの心情を赤裸々に綴る母親の目線と、冷静に考察する医師の目線を兼ね備えており、同疾患の関係者のみならず、命の重みについて深く考えさせる日記。
跳びはねる思考 会話のできない自閉症の僕が 考えていること	東田 直樹 ／イースト・プレス	人生とは、運命とは、幸せとは。重度自閉症の著者が、「生きる」ことの本質を、鋭く、清冽な言葉で考えつくした、驚異のエッセイ。



事業報告

ピックアップ

平成26年度人権啓発研修ハートフルセミナー第4講座を開講しました

アスペルガー症候群傾向のあるADHD当事者の広野ゆいさんを講師にお迎えし、ハートフルセミナー第4講座「発達障がいの凸凹～『できる』を活かそう～」を、10月18日（土）に開講しました。

広野さんは、障がいの特性や発達の凸凹を、個性としてまろごと受け入れてくれる社会環境が必要だと教えてくれました。

当日の様子は、ミニ番組「心呼吸しよう」で11月に紹介されました。見逃された方は、高知さんテレビのホームページをご覧ください。



（企画啓発課 林）

ピックアップ

人権について啓発コラムを掲載しました

「高知県人権施策基本方針」に挙げている県民に身近な人権課題について、有識者の方々に執筆していただき、昨年の6月から12月まで計7回にわたり高知新聞朝刊に人権啓発に関するコラムを掲載しました。

本年度は、下記の内容で掲載しました。

	掲載日	執筆者	テーマ	タイトル
第1回	平成26年 6月 7日	和田 章	犯罪被害者の人権	心の豊かさで支援を
第2回	平成26年 7月17日	平石 勝久	ネットと人権	相手思いやる想像力を
第3回	平成26年 8月20日	岩野 友里	HIV感染者と就労支援	障害名を開示する意義
第4回	平成26年 9月25日	広野 ゆい	発達障害の凸凹	「できる」を生かせる社会に
第5回	平成26年10月15日	村木 真紀	性的少数者の人権	働きやすい職場環境を
第6回	平成26年11月22日	山本 和久	障害者の人権	共により豊かな人生を
第7回	平成26年12月18日	浦野 愛	災害と人権	個人の命と暮らしに目を

※3月頃に第1回から第7回全てを編集した啓発小冊子「人権啓発シリーズ集」を発行します。

（企画啓発課 林）



Information お知らせ



ミニ番組の紹介

ミニ番組『心呼吸しよう』

ミニ番組『心呼吸しよう』は、人権啓発活動を行っている県内の関係機関や団体、地域住民のみなさんの様子を5分間のミニ番組に制作して放送するものです。

今年度は6回放送し、今回最後の放送となります。

〈第6回〉

●放送局：高知さんさんテレビ

●日 時：平成27年2月22日（日）午後5時25分～

●内 容：「障害者の人権」

後天性の全盲ピアニスト 前川 裕美 さんの
障害と向き合った音楽活動の様子などをご紹介します。

●再放送：平成27年2月28日（土）午前9時55分～



*番組を見逃された方は、高知さんさんテレビのホームページにて過去放送分をご覧になることができます。

（企画啓発課 國松）



じんけんライブラリー 利用案内

図書、視聴覚教材の貸し出しを無料で
行っていますのでぜひご利用ください

■ 図書

1人5冊以内で、期間は2週間以内です。

■ ビデオ・DVD

1人2巻以内で、期間は2週間以内です。

■ パネル

1人3セット以内で、期間は1カ月以内です。

※ 直接来所できない場合は送付もいたします。
（送料は利用者のご負担となります）



ホール案内

各種研修会等にご利用ください

■ 収容人員

270名（机を使用する場合は180名）

■ 設備

放送設備、スクリーン、冷暖房

■ その他

使用料、利用時間等についてはHPでご確認ください。

問い合わせ先

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号

公益財団法人 高知県人権啓発センター

E-mail : center@kochi-jinken.or.jp

TEL 088-821-4681 FAX 088-821-4440

HP : <http://www.kochi-jinken.or.jp>